

サル用大型捕獲檻の導入

～捕獲と防除の両輪でサル被害の軽減を図る～

市内では豊岡地域（五荘・奈佐地区）から城崎地域（来日～簸磯（ひのそ））にかけて、城崎A群と呼ばれるニホンザルの群れ（2025年4月時点で推定42頭）が生息しており、地域からは農作物被害や人への威嚇といった生活被害も報告されている。

市では、被害の軽減を図るため、本年6月から「捕獲」と「防除」の両輪でサル対策を強化しており、群れ全体の頭数削減を図るために、銃によるサル捕獲専任班（約10人で編成）を設置したほか、農作物被害の軽減策として、サル用防護柵設置補助事業を拡充（補助率および補助金額の増額）するなどの取組みを進めている。

さらなる捕獲強化を図るため、新たにサル用大型捕獲檻を導入し、10月14日（火）に城崎町二見地内の山中に設置した。現在、檻の中に柿の実を置くなど餌付けを行い檻への警戒心を解いている。山の中に食べ物が少なくなる11月中下旬から魅力的なエサ（大豆・ミカン・芋など）で誘因するなど本格的な捕獲へ移行する。



1 設置日 2025年10月14日（火）

2 設置場所 城崎町二見地内

3 仕様 幅3.0m×奥行7.0m×高さ2.4m（製品名：サークルM（竹森鐵工株式会社製））

4 仕組み

サルが餌を求めて上部の開口部から侵入した後、檻から脱出しようとしても垂直板に阻まれて出られない構造の捕獲罠

5 効果

これまでの銃猟や箱罠による単体での捕獲方法に比べ、大型の檻を設置することで、群れでの捕獲が期待できる。

6 事業実施主体 豊岡市

【現場写真】



〔問合せ〕 豊岡市コウノトリ共生部農林水産課 TEL0796-23-1127(直通)
担当 浪華（内線 2361）